

創刊 20 周年記念号発刊にあたって

浜 田 隆 宏

「コンピュータや情報処理に関する技術について、その歴史的意味や位置づけを明らかにしながら、技術的問題解決への努力や成果を紹介すること」を目的とした本誌は、1981年2月の創刊以来20年を経、通巻68号となる本号を創刊20周年記念号として発刊するに至りました。この間、多方面の方々から本誌が有用であるとの評価を頂き、弊社としてはささやかなりとも社会に貢献し得たことを喜びとしております。これも偏に皆様方のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。本誌掲載の論文は、日頃よりご協力頂いている社外の研究者・技術者からのご寄稿も含め、主として情報処理の専門企業である弊社の技術の精髓ともいべきものであります。弊社の事業自体もES7000のような先進的なプラットフォームを基にEビジネスシステムの開発など挑戦的な分野に取り込む機会を多く頂いており、技術的挑戦の機会は質・量ともますます増えて来ております。このことは技術力を最大の抛り所としている弊社にとってまさに本懐と申すべきものであり、併せて厚く御礼申し上げます次第であります。

この20年間を振り返ってみますと、情報処理技術の進展と利用者の要求の多様化には改めて目を見張る思いが致します。情報技術がビジネスに果たす役割は年々増大し、ここ数年間のビジネスと情報技術を融合させるEビジネスの展開とそれを支える情報技術の進展には旧来にはない質の変化とスピードが見られます。こうした時代の変化の中で、本誌は「成果に基づいた技術の紹介」を主軸において各論文を掲載してまいりました。新技術をはじめ読者にとって有益な技術情報をいち早く現場で実践・検証し、その技術成果を時宜を逸せず論文として報告していくことが、本誌の使命の一つと考えております。幸いにして最近の本誌の内容を見ても、新しい情報システムの方角を製造分野、流通分野、金融分野などに特化して報告した特集、新しい時代に対応したプロジェクトマネジメントに関する特集やオブジェクト指向技術やJavaなどの期待される新技術の特集など、時代にあった論文を公開できていると自負致しております。これらは業務の成果をいち早く論文という形で皆様にご提供しようとする現場の技術者、論文としての品質向上に気を配る査読者、編集委員、論文誌の発刊をスムーズに進めて行く編集事務局の努力の賜物であります。この場を借りて技報編集・発刊の関係者に感謝の気持ちを表したいと思っております。

更に、本誌の内容は1996年以降、社内外のホームページでの公開も行っており、どなたでも関心のある方にご参照いただけるようにしております。幸いにして高いアクセス回数を示しており皆様のお役に立っていることを実感しております。また本誌は、再生紙の使用、大豆油

インキの採用など環境問題にもささやかな協力をさせていただいております。

21世紀を迎えたこの時期に創刊20周年記念号の発刊を一つの区切りとしまして今後とも改良を続け、皆様のお役に立つ媒体とすべく努力していく所存であります。一層のご愛読を賜るとともに忌憚のないご意見、ご批判をお寄せ下さいますようお願いする次第であります。

日本ユニシス株式会社 取締役
技報編集委員会 委員長